

尾ノ上の風

第13号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

尾ノ上っ子の自主性健在 「じまん大会」

学校にはいろいろな行事があり、子どもたちも一生懸命に取り組んでいます。それらの行事に負けず劣らず、尾ノ上小の子どもたちの自主性が発揮されているのがこの大会です。今年、11月15日の集会で7組の個人・グループが「詩の朗読・歌・お笑い・開脚・歌とダンス」などの発表をしました。

この本選に出場した子どもたちはもちろんすごいパフォーマンスを見せてくれましたが、これ以前には昼休みにオーディションが開かれ、それを受ける子どもたちで長蛇の列ができていました。本選に出場はできなかったものの、そのオーディションで生き生きと得意な歌やダンス、パフォーマンスを見せたいと応募してきたその心意気が本当に素晴らしいと思います。尾ノ上には素晴らしい自主性を発揮する場があるなあとと思います。



じまん大会のステージ発表を
楽しく見る全校児童

親子「道徳」の日 いっしょに考えませんか ぜひ、おいでください。

12月4日（水）は2学期最後の授業参観と学級懇談会です。

この日の授業は、全クラスとも道徳の授業です。昨年度から道徳は、“教科”になりました。子どもたちが考え、議論する場面を意図的に取り入れた授業で、子どもたちが多角的・多面的に考えることの大切さを知り、主体的で深い学びをめざしていきます。ぜひ、今回の授業参観も保護者の皆様には教室の中に入って、子どもたちの感じたことや考えを聞いたり、様子を見たりしていただきたいと思います。また、学級懇談会も2学期の子どもたちの成長の様子を聞く絶好の機会です。人権週間を通して、いじめや差別をなくす取り組みをどの学級も行っています。ぜひ、懇談会にも参加していただいて様子を聞いていただきたいと思います。授業参観は、14時05分～14時50分、学級懇談会は、15時05分～、ひまわり学級懇談会は、15時30分～です。お待ちしております。



住宅地の中の道路は、白線もなく、道いっぱいに広がって歩く様子が見られます

住宅地の道路 登下校は危険がいっぱい

尾ノ上小の地域は、地域の方々やPTAの見守りで子どもたちの安全を守っていただいています。月に1度、老人会・公民館・オババト隊の合同会議に私も加えていただいていた情報交換をしています。その会議で住宅地の道路を登下校する際の、子どもたちの歩行の様子が危なく、注意をしてもなかなか改善が見られないという情報をいただきました。実際に私も登校時に様子を見に行き、大変危ないと危機感を持ちましたので、下校時に職員で指導にあたっています。今週も下校時に大変危ない場面を見かけており、その場で指導をしています。ご家庭でも声かけを、必ずお願いします。

こんにちは！お仕事&授業拝見16 5年3組学級 高橋先生編

○高橋先生の5年生算数の授業を参観しました。先生の授業は、

①授業にしっかり取り組む姿勢を日々の積み上げで育てている

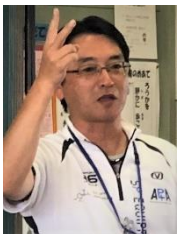
②子どもの実態を踏まえ、つまづきを予想して教材研究をされている授業でした。

高橋先生の話し方や表情は、穏やかな話し方ですが強弱があります。そして、注意指導の仕方がうまく、たしなめることば掛けは、子どもの心に入るような話し方をされることです。まじめかと思えば、子どもたちとのやりとりは、思わず笑いが出るような冗談も言われる。子どもの様子にあわせて、授業の中にホッと気を抜ける場所があったり、ぐっと集中する場所があったりと表情や言い方、動作に変化をつけておられました。

本時の算数は、小数の割り算の単元の導入で教科書にある場面のイラストを拡大して提示しました。値段が同じで長さの違う3種類（整数と小数の長さ）のヒモの1メートルあたりの値段を見つけるのが課題でした。すごいと思ったのは、この場面の状況をつかみかけているかなと思っているところに、さらに実際に2メートルの紙テープを用意され、1メートルのところでハサミで切って見せたところです。この実際の動作によって子どもたちは、1メートルあたりと言う意識が強烈に残ったと思います。具体的に場面の状況つかませるお手本だと思いました。この後、もとの値段、長さ、1メートルと書いたフラッシュカードを使って言葉の式を作らせ、最後は実際の小数の長さを使って式に書くことができました。ノートを先生の所にもって来させ一人一人に丸をつけながら言葉をかけていました。授業の中で子どもたちに個別に○をつけて声をかけたり、確認をしたりと一人一人に丁寧に関わっている授業でした。



一人一人に丸をつけて言葉かけする高橋先生



高橋 正人 (たかはし まさひと)先生 尾ノ上小5年目

【高橋先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

もう40年以上今もお付き合いをさせてもらっている高校時代の陸上の恩師に憧れ、教職に就きたいと思い、高校の免許を取りました。小学校で臨時採用を経験したときに小学校教育のおもしろさを実感し、絶対小学校の先生になろうと思いました。

こんにちは！お仕事&授業拝見17 1年3組国語 佐藤先生編

○佐藤先生の1年生国語の授業を参観しました。先生の授業は、

①1年生に対して混乱のないすっきりした授業の型 ②子どもを一生懸命にさせるしかけ

③笑顔で褒める、頷くなど教師の豊かな表情 が特に光る授業でした。

授業が始まると同時に、ひらがな、よむ、かんがえると3つの学習があることを知らせて見通しを持たせます。次に、カードを貼って知らせ、「～は～を食べます。」の型を示してノートに文を作らせました。子どもたちは黙々と書き始めており、なんで1年生でここまですぐに集中できるのだろうと驚きましたが見ていて謎が解けました。先生は1年生の間を頻繁に回りながら、小さく声をかけたり、紹介したい子どもの短文を取り上げたりして板書していきました。書かれた短文の上には子どもの顔写真が貼られており、子どもたちは先生に何とか取り上げてもらいたいと頑張っていたのです。しかけがいいなあと感じました。

説明文の学習に入ると、先生が挿絵を使って「絵の特徴をみてください」と問い、「とげが立っている」「とげがななめになっている」と言う子どもの発言を受けて「それが書いてある文章を見つけてください」と教科書の本文に波線を引くように指示されました。国語はテキストに根拠を求めるといふ国語の基本を大切に指導し、実物投影機で教科書の本文を映してきっちり確認をしていました。また、本文の「どのようにしてみをまもるのでしょう」という文を指し、「ここはクイズ番組みたいだね。こういうのを問題と言う意味で『問い』といいます」と新しい用語もきちんと指導し、1年生が楽しく学習していた授業でした。



電子黒板に映した教科書の文を使って、自分が考えた理由を言う1年生



佐藤 あい (さとう あい)先生 尾ノ上小2年目

【佐藤先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

両親が教師をしていた影響だと思います。特に、父親が子どもたちの成長を見てうれしそうに「子どもがのびたんだよね」と語る姿に影響を受けたのだと思います。その後、臨時採用の講師を経験して、自分自身が成長させてもらって一段と教師になりたいと思いました。